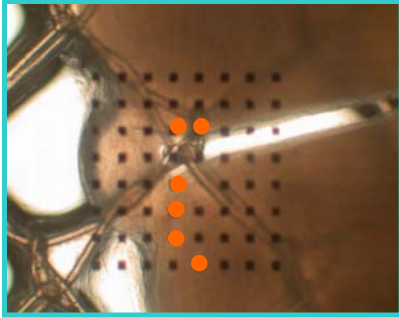


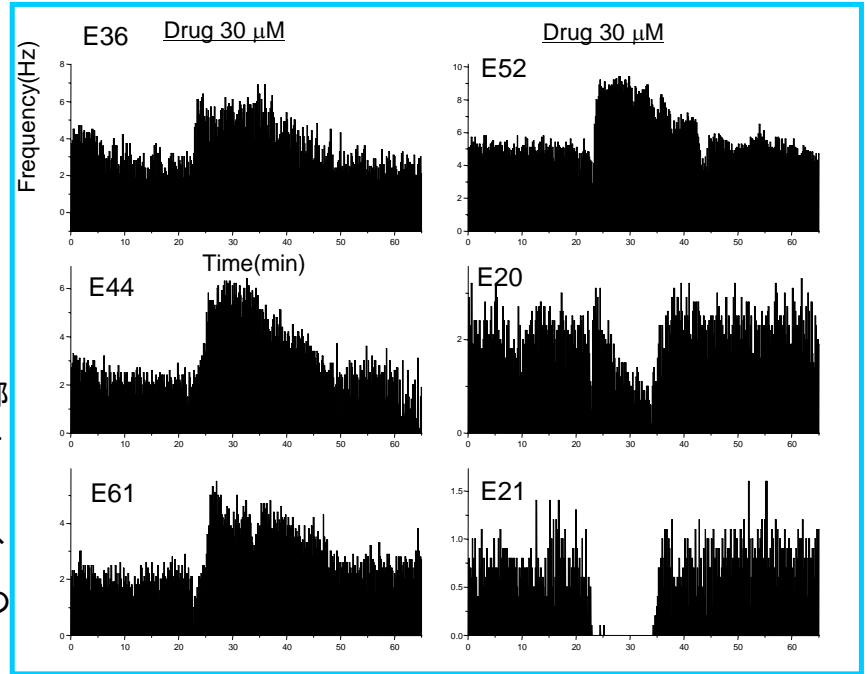
急性実験（視床・視交叉上核 スライス）

視床下部弓状核での薬効評価

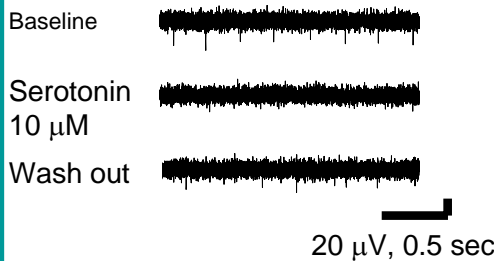
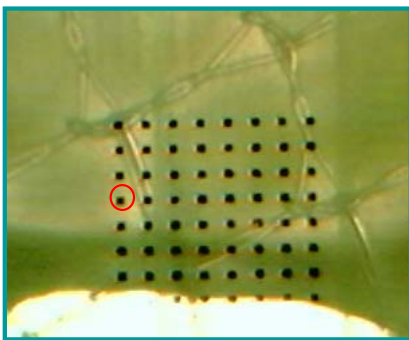


成熟ラット視床下部弓状核からの自発活動（上図）MEDプローブ上に置かれた視床下部スライス。弓状核部分が電極に重なるように配置。

（右図）各電極から記録された自発活動のスパイク頻度を示す。神経活動の薬物反応（30 μ M）は部位によって異なり、発火頻度の増減が異なる電極で見られた。

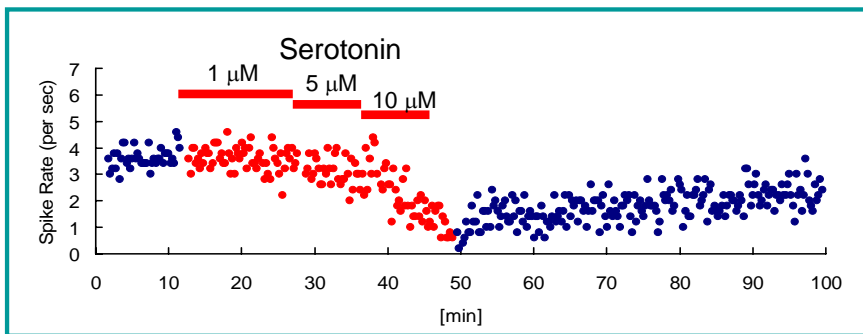


視交叉上核ニューロンの活動に対する薬効評価



（左図）MEDプローブ上に置かれた急性ラット視交叉上核スライス。使用プローブ：MED-P515A; 150 μ m間隔

（右図）左図中赤丸で示した電極から記録された視交叉上核ニューロンの自発活動。セロトニン（10 μ M）を投与すると活動が抑えられ、その効果はほぼ可逆的であった。



（左図）視交叉上核ニューロン活動の時系列変化。約4Hzの頻度の活動が、セロトニン（1-10 μ M）の投与で大幅に抑制された。

実験の内容によっては対応できない場合もあります。具体的なご要望については弊社にお尋ね下さい。製品の定格及びデザインは改善等のため予告無く変更する場合があります。カタログ掲載のデータ・グラフ等は代表例を示しており、保証できるものではありません。カタログ記載内容は2009年10月1日現在のものです。製品の色は印刷物ですので、実際の色と若干異なる場合があります。